

し、かしこれは、正信偈に
「おごり、たかぶり、よこし
まの、難きはかう身にて信ぜん
に、難きなかにもなおかた
し」と示される通り、阿弥陀
様の心を遠ざけることに他な
りません。

浄土真宗の信心は「聞即
信」といわれるとおり、阿弥
陀如来の名号のいわれをすな
おに聞いて、その救いの力に
すべてをお任せすることです。

題材法話

『コロナの中で』

就任以来、坂田組長
コロナ蔓延と共に歩ん

止り、組教会は文書審議とな
理事となつて活動は悉くな
大学（東京有明）武蔵野の
出校も、可能ない限りへの
予防対策を講じ、抗原検
査の新幹線内で帰宅し検
査を行っている。上で

生活ではあるが、不自由・生
保健康従事者の皆さん療・生
や、休業を余儀なくさ
は、その比の方々は、案ぜ
られ、その比の方々は、案ぜ
られ、その比の方々は、案ぜ

不届くまで、接
届くまで、接
届くまで、接



が親鸞聖人や蓮如上人
禍や飢饉と共に疫病が
蔓延した歴史がありま
し。その時、苦しみに
安んずる人々、対
上り、人も一人、蓮如
は、人も一人、蓮如
ある、か、よ、病、騒
て、いる、か、よ、病、騒
く、無常の、世界、死
生、ま、れた、もの、は、必
ぬ、で、ない、今、更、驚、く
と、同じ、う、い、な、意、味、の
と、を、仰、つ、て、い、ま、す、こ
コロナ、私、たち、が、一、コ
中、で、ナ、と、騒、ぎ、立、て、る
性、自、殺、者、が、前、年、度、に、女
9、自、殺、者、が、前、年、度、に、女
生、自、殺、者、が、前、年、度、に、女
の、4、7、9、人、が、統、小、中、高
い、う、事、実、が、重
この、言、葉、が、重
す。の、言、葉、が、重
私、たち、は、



うとされるのが阿彌陀
さ、ま、で、あり、その、み、教
え、に、出、会、え、た、の、身、を、受
き、に、受、け、難、し、人、身、を、受
けた、から、で、あ、り、ま、す、う
これ、は、二、度、と、巡、り、合、う
ス、な、の、で、す、な、い、チ、ヤ、ン
の、言、葉、は、一、人、間、の、い
の、ち、の、根、本、的、な、意、味、を
見、失、つ、て、い、は、い、け、ま、せ、か
ん、と、い、う、こ、と、に、ほ、か
な、ら、ず、一、人、間、の、い、け、ま、せ、か
こ、と、を、一、人、間、の、い、け、ま、せ、か
人、に、伝、え、て、い、か、な、け、れ
ば、な、り、ま、せ、ん、な、り、ま、せ、ん、
○自己中心的な存在
で、一、方、で、コ、ロ、ナ、感、染
施、設、で、働、く、人、の、家、族、が
偏、見、や、差、別、を、受、け、た、警
り、と、い、わ、れ、る、一、人、間、の、い、け、ま、せ、か
察、と、い、わ、れ、る、一、人、間、の、い、け、ま、せ、か
ぎ、た、行、為、が、社、会、を、行、き、過
も、な、つ、て、い、わ、れ、る、一、人、間、の、い、け、ま、せ、か
界、を、混、乱、に、陥、れ、る、の、い、け、ま、せ、か
よ、り、も、イ、ル、ス、の、い、け、ま、せ、か



り、やすく、自己の判断
基準によつて、自己の判断
正しい「一相手は間
違つて、他者に対する決
け、な、他、者、に、対、し、て、攻、撃
的、に、な、つ、て、し、ま、う、こ、と
も、あ、り、ま、す、な、い、チ、ヤ、ン
に、よ、り、存、在、す、る、の、が、縁、起
わ、ら、ず、自、己、中、心、的、な
もの、の、見、方、を、す、る、こ、と
ろ、に、の、見、方、を、す、る、こ、と
果、て、は、争、い、ま、で、が、生、じ
る、の、だ、と、仏、教、は、説、き、ま
す。の、だ、と、仏、教、は、説、き、ま
こ、の、こ、と、を、親、鸞、聖、人
は、この、こ、と、を、親、鸞、聖、人
総、じ、つ、て、存、知、せ、ざ
る、な、り、（歎、異、抄）と
端的、に、仰、つ、て、い、ま、す、
見、る、こ、と、の、ま、ま、に、私
が、絶、對、的、な、善、惡、を、判
断、す、る、こ、と、の、危、険、と、難
い、こ、と、の、危、険、と、難
し、く、こ、の、混、迷、す、る、世、中
で、あ、る、こ、の、混、迷、す、る、世、中
ち、は、自、己、中、心、性、を、有、す